

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-512-1636
090-9602-0700

諫早干拓防災効果なし 後背地湛水被害



諫早市の漁民抗議

農水省や長崎県から、諫早湾干拓調整池の海拔マイナス1メートル管理によって排水不良を解消できると言われ続けた諫早市森山地区において、7月3日、水田など87haに及ぶ湛水被害が発生した。これに対し、潮受堤防の排水門を管理する長崎県は、従来、北部排水門からの排出の際には漁場が隣接する小長井漁協の了解を得る扱いをしていたにもかかわらず、湛水被害解消という森山地区農業者の強い要望のなかで、同漁

協の了解を得ないまま850万トンの大量排水を行い、小長井漁協理事長以下の強い抗議を受けることとなった。排水当日には、同漁協組合員が潮受堤防の管理事務所に押しかけるなどの険悪な状況も生まれた。排水後、諫早湾内においては、早くも、同漁協が懸念した赤潮の発生が確認されている。

潮受堤防が排水阻害

見捨てられた森山農民

今回湛水被害が発生した森山地区の基準田面は海拔マイナス0.6メートルであり、これに対し、調整池水位は6月30日から7月3日の排水までの間、海拔マイナス0.20メートルからマイナス0.49メートルであった。4日間にわたって調整池水位よりも基準田面が低かった森山地区において自然排水が阻害され、湛水被害が生じたのは当然の帰結であった。しかもこの間の雨量は大雨とはいえせいぜい100mm程度のものであり、決して珍しいものではない。長崎県の説明によると、今回は小潮と重なったため排水操作が困難であったということであるが、100ミリ程度の

雨と小潮が重なることは、調整池がこのまま存在し続ける限り、今後とも頻繁に起こりうることであり、最終的には排水がうまくいかなかった」と釈明した。県は来年度にも森山地区の排水対策に乗り出す方針を明らかにしているが、それまでは排水門を開けるしかないという。

一方、知事の陳謝について、小長井町漁協(諫早市)の松永秀則理事は「陳謝より、行政のトップとしてやるべきことはあるはずだ。知事は排水門や漁場を実際に見に来て、漁業被害の実情を知るべきだ。足を運んで、漁民と会話をすべきだ」と批判した。

堤防のおかげで安全守られている

宮本明雄諫早市長コメント

農水省は、6月1日、有明海漁民に対し「排水門に諫早市の被害の大部分を防ぐ効力はない」ことを認め、同月17日、農水省担当者が諫早市の宮本明雄市長を訪問し、諫早の防災効果が市内全域に及ばないことを説明している。この時、防災効果がないことの説明を受けたにもかかわらず、宮本市長は「堤防のおかげで市民の安全が守られている」と語った。盲目的ともいえる諫早防災神話によって後背地の排水不良対策を怠り続け森山地区の諫早市民の生命や財産を危険にさらしてきた諫早市長の責任は重いと云わざるを得ない。

なお、森山地区の排水不良問題については5月11日の参議院予算委員会にて仁比聡平議員(共産)が早速な排水対策を求めている。

長崎県知事陳謝

諫早湾干拓事業・淡水排出問題 農、漁業者に知事が陳謝／長崎

【毎日新聞7月10日】国営諫早湾干拓事業で建設された北部排水門から大量の淡水が海へ排出され、漁民と県職員とが口論となった問題で、金子原二郎知事は9日の定例記者会見で「結果的に農、漁業者の両方に迷惑を掛けた」と陳謝した。

大雨の影響で、旧干拓地の諫早市森山地区が冠水。知事は「小潮と予想以上の降雨が重なった」と当時の状況を説明した。その上で「本来なら、どんどん排水するところだが、昨年来アサリの育ちが良く、漁業者から『排水は慎重に』との要望もあ